

# 本 会 記 事

## 1. 昭和53年度総会ならびに研究発表会

四国植物防疫研究協議会の昭和53年度総会および研究発表会は、約110名が参加し、11月16日に徳島市の徳島県郷土文化会館で開催された。

### (1) 総 会

午前10時から開会され、昭和52年度会務報告が承認されたのち、昭和53年度事業計画ならびに予算案が上程され、承認された。なお、昭和53年度から編集事務は四国農試で担当することになった。

### (2) 研究発表

11時から14時30分まで、つぎの課題について研究発表が行われた。

橘 泰宣・吉岡幸治郎・重松喜昭：ソラマメのアブラムシ伝染性ウィルス病とその被害回避

山本 馨：ベノミル剤と他剤との混用が、ベノミル耐性灰色かび病菌の防除効果に及ぼす影響

吉岡幸治郎・山崎康雄：野菜類におけるナミハダニの多発と薬剤感受性

浅野昌司：ZARDEX のハダニにたいする種特異性について

野田弘之・衣川 勝：タマネギ種子の保菌状況と種子消毒の効果（予報）

山本 勉・金磯泰雄：ハウス内温度の制御によるイチゴうどんこ病の発病抑制

葛西辰雄・佐々木善隆：コナガの防除薬剤について

加々美好信・脇屋春良：芍薬に寄生するメセンチュウに関する研究 1. 侵入，増殖について

川村 満・光江修一・大沢敏郎：ポンカンにおけるミカンツボミタマバエの生態と防除

### (3) 協 議

14時30分から17時まで、本年度特異的な発生をした病害虫とその対策ならびに水田利用再編によって導入された作物の病害虫と防除上の問題点について、谷，浜岡，杉之内，西内の諸氏が報告し（要旨は100～104頁），またダニの生態と合理的防除法について賀川，高井両氏に話題提供していただき，活発に討議された。

## 2. 明年度総会

昭和54年度総会は高知県が担当し、今秋開催の予定である。

## 3. その他

本年は徳島県の山本副会長の発意と県内の皆様のご尽力により、記念写真を撮影し、出席者に配布した。